

みんなで作る

森ものがたい

2018年6月24日発行 第126号

油山自然観察の森
森を育てる会



〒811-1355
福岡市南区大字松原855-1
TEL:092-871-2112
FAX:092-801-8661
<http://www.morikai.org/>
mail: aburayama@morikai.org



＜5/27 カブトムシの森で草刈り作業を行いました＞

| | | |
|---|------------------------------------|-----|
| | 表紙 | 1 |
| | 活動ノート(3/25,4/8,4/15,5/6,5/27,6/10) | 2~3 |
| も | 特集「アカマツ林幼木調査」 | 4 |
| | 特集「新五カ年計画検討会」 | 5~6 |
| く | 油山のお仕事日記「巨木さがし」 | 7 |
| | リレーコラム「子どもと森会に行こう」 | 7 |
| じ | うん・えー会報告(3/10) | 8 |
| | 活動予定 | 8 |

「森を育てる会」は福岡市油山自然観察の森の保全活動を通じ、広く緑地保全活動を行う市民の育成・交流を行う事を目的とする市民グループです。活動は（公財）福岡市緑のまちづくり協会の助成を受けて行っています。会では、随時、会員を募集しています。興味がある方はメールまたは電話でご連絡下さい。

活動ノート



3月25日(日)
アカマツ林作業
9:30~15:30



◆参加者:松雪、国広、林、川上、鎌田、諸藤、榎 計7名

◆内容:今日は、D地区の遊歩道山側で、アカマツ幼木の支障となりそうなタブノキやクロキなどの除伐、そしてここ2~3年手を入れていなかったためヤブ状になっていたF地区遊歩道沿い及び谷側斜面のシダ刈りと小灌木の除伐を行うことにしました。D地区での作業は、3人という少人数にもかかわらず直径15~25cm程度のタブノキやクロキ、クスノキ、ネズミモチなどを5本除伐することが出来ました。また、F地区での作業では、シダやいばらを取り除き、アカマツの赤ちゃんがのびのびとできる空間を作りました。また、遊歩道谷側の急斜面で小灌木が密集してほとんど視界が見通しがきかない状況にありましたが、今日の作業で、見違えるような明るい斜面にすることが出来ました。今後はこれまであまり手を掛けることが出来なかったD~F地区の整備を行いアカマツ群落らしい景観を持った森づくりを行っていききたいと思います。

【ふりかえりより】

・アカマツ林の最奥地が少しきれいになりました。(鎌田)

4月8日(日)
アカマツ林作業
9:30~16:00

◆参加者:松雪、国広、橋本、織田、藤木、森山、静間、鎌田、諸藤、林、川上、榎 計12名



◆内容:第1班は、C地区の直径25~30cmの二股に分かれたタブノキの伐倒。まずは横に張り出していた幹から始めました。この幹は根元で大きく曲がっていたため、受け口は作らず追い口切りをメインとして、午前中で伐り倒すことが出来ました。午後からは、谷側に偏心気味の残った大きな幹を、まずは高枝ノコで枝を切り落とすことによって重心を少し変え、次いでロープによる谷側への倒れ込みを防ぎながら、基本通りの手順で無事に所定通りの伐倒を行うことが出来ました。第2班は、F地区谷側の遊歩道右側の小径木やシダなどでヤブ状になっていた箇所を、切り開いていきました。第3班は、コナラに倒れ掛かっていた直径25cm位のタブノキの掛かり木処理です。まずは、根元を引っ張って引き落とそうとしたのですが、チルホールが動かなくなってしまいました。そこで高枝ノコで枝を切り落とし伐り倒しました。

【ふりかえりより】

・今日は人数も多く、楽しく切れました。風もさわやかで最高でした。(橋本)

4月15日(日)
がト山の森作業、植生調査
9:30~16:00



◆参加者:林、橋本、国広、平野家5名、静間、鎌田、柴戸計11名

◆内容:C地区のクロキの伐採は念の為にロープをかけた上で作業にあたり、ほぼ予定通りに倒すことが出来ました。B地区では斜面上部の径20センチ程のタブノキと径30センチ程のシロダモを伐採しました。タブノキは問題なく伐倒できたのですが、シロダモは追い口切りの際に、十分切り込まない内に強引にクサビを打ち込んだために、掛かり木に。シロダモはいい香りでした。現在C地区では明るくなった部分でクヌギの実生が沢山見られます。今後北側部分も伐採を進めて実生が出やすい環境にしていきます。一方、植生調査は各区画3~6種の蕾、花、果実が見られ、全体で8種類でした。特に今年はこれまで見られていたスミシロの仲間の花が見られませんでした。昨年に比べると半分の種類で、これは気候の違いの他に堆積したクヌギの落ち葉と下草が原因と思われる。

ます。

【ふりかえりより】

・春になって、花も咲いて、サワガニやカエルを見つけ子供には楽しい季節。(平野陽)

5月6日(日)

五か年計画検討会

9:30~15:30



◆参加者: 鎌田、松雪、長澤、榎、鈴木、中嶋、林、織田、橋本、静岡、富永、川上、国広 計13名

◆内容: 今日雨の油山で第一回新五ヶ年計画検討会を行いました。第一回は2019~2023年の保全計画を立てるネタだとして現場を回りながら、現行の五ヶ年計画の達成度、良いところ、手を入れなければならないところを話し合いました。センターに帰ってからは、現場の事に加え、今後の運営の事や活動の方針などを話し合いました。アカマツ林の単林化、カブトムシの森の皆伐は後数年で目途をつけ、次のステージでは実生や萌芽してくる樹木をどう残すか、日当たりが良くなった場所をどう使うか。場所、季節、植物の種類によって細やかな保全作業が必要になってくるのが予想され、重要な5年になりそうです。雨の中、参加してくれた皆さんありがとうございました。また、参加できなかった会員からはメールで意見をもらいました。計画づくりは大変ですがワクワクするような新五ヶ年計画を作りたいと思います。今後は、計画策定に向けて、今日の意見を参考にして世話役等のワーキンググループで話し合いたいと思います。日取り、内容が決まりましたらお知らせしますのでどし

どし参加してください。

【ふりかえりより】

・新五ヶ年計画作成に向け、ビジョンが見え、今後の森会運営の話し合いも良かった。(織田)

5月27日(日)

カブトムシの森作業

9:30~15:30



◆参加者: 静岡、松雪、国広、川上、榎、諸藤 計6名

◆内容: 今日は九州国立博物館の職員とそのボランティア11名が森会の視察にられました。A地区で九博のみなさんへの説明の後、クヌギ林とその周辺の草刈りを1時間程度して頂きましたが、人数が多かったのでかなりの範囲を刈ることができました。午後は森会会員でC地区東屋前のササ、ヌスビトハギなどを、クヌギの実生に注意しながら刈り、斜面もイタドリ、ササなどを選択的に刈っていきました。また、B地区の川周辺及び遊歩道沿いのイタドリなどを刈り、川へのアクセス改善を図りました。1、2年生の草は際立って大きくなることはないのですが、それでも勢いがいいと遊歩道が歩き難くなったり、アクセスし辛くなります。増して多年生のササ、イタドリなどとなると、刈らずにいると年々大きくなっていくので、夏の草刈りは大切です。夏は虫取りや水遊びに訪れる子供が増えるので、気軽に入って来られるような環境づくりをしていきたいと思ひます。

【ふりかえりより】

・九博の11名のおかげでA地区の5割を刈ることが出来ました。草刈りは人なり!!(松雪)

6月10日(日)

アカマツ林作業

9:30~16:00



◆参加者: 国広、静岡、鎌田、榎、堤 計5名

◆内容: 梅雨に入りましたが、幸い雨にならず、予定通り作業を行いました。体験参加の方が、入会されることになり新しい仲間が増えた嬉しい日となりました。ミーティング・道具準備の後、準備体操を済ませてアカマツ林へ移動。D・E地区とF地区の2班に分かれて作業開始。作業内容は小灌木の除伐とシダ等の草刈りです。除伐は直径10cm前後のリョウブを主にハウノキやネズミモチ等、草刈りは急斜面や遊歩道沿いでシダ等を対象に行いました。伐採木の処理については、払った枝をE地区のヤードへ入れ、中心木のうち作業道作りに利用できそうな材は遊歩道脇にまとめて置くこととしました。他に今日は伐採できなかった樹木周りのシダ刈りや、遊歩道からヤードに降りる作業道の確保も行いました。また、日当たり良好のD地区斜面の草刈りをしながら、1~3年のアカマツ実生がたくさん出ているという嬉しい確認もありました。休憩している間に野鳥のさえずりを聞いたり、蝶やトンボの姿も目にしました。蝶はルリタテハやウラギンシジミということも勉強しました。オオスズメバチが俺様の縄張りだぞと言わんばかりに羽音をさせて飛び回っていたのにはちょっと身構えました。

【ふりかえりより】

・森の生態、維持、管理について勉強したいなと思って入会しました。(堤)

特集「アカマツ林幼木調査」

(アカマツ林調査世話役 中嶋)

地表に落ち葉や枝などが放置されると、微生物によって分解され、栄養分を多く含む土の層（腐植層）が堆積します。

栄養分が多くなると、アカマツ以外の植物も生育しやすくなり、アカマツは他の植物との生存競争にさらされ衰退してしまうため、アカマツ林を継続的に維持するには、これら腐植層を落ち葉とともに取り除く「地かき（じかき）」作業が必要であると言われています。

そこで、実際に、地かきがアカマツの生育等にどのように影響するのかを調べるため、アカマツ林B地区の尾根沿いに、地かき処理を行う方形区Aと、行わない方形区Bの2つの調査区画を設置し、実生幼木の発芽や定着状況を記録する調査を平成28年から毎年実施しています。本号では、その調査結果を報告します。

■実生幼木の発芽と消失状況

右に示した図は、2m四方の方形区内に発芽した実生を各年毎にプロットしたものです。翌年以降に枯死等で消失した個体は×印で表しています。

また、各年の発芽実生の個体数は次のとおりです。

| | H28 | H29 | H30 |
|-----------------|-----|-----|-----|
| 方形区A (地かきあり) | 13 | 25 | 38 |
| 方形区B (地かきなし) | 11 | 3 | 13 |

明らかに、地かき処理をした方形区Aの方が、多くの実生が発芽し、定着していることがわかります。

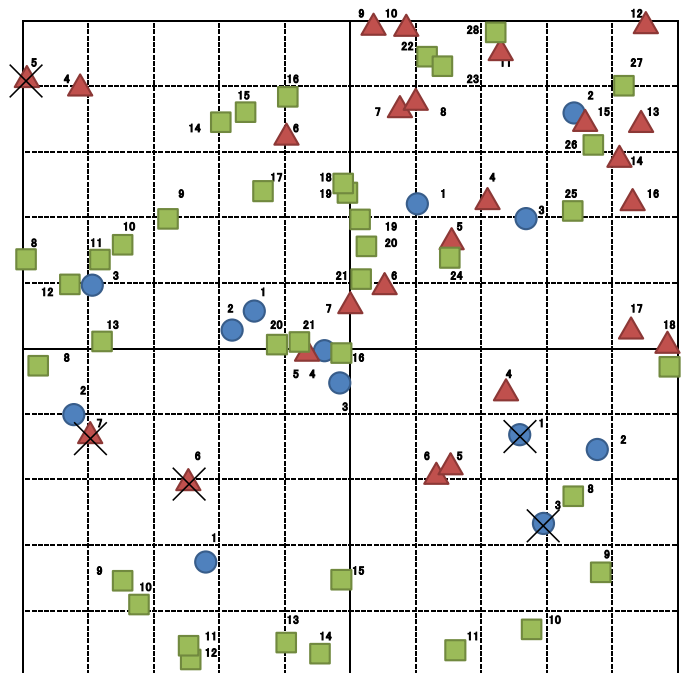
■シダなど他の植物の状況

シダや広葉樹の実生、ナガバモミジイチゴなどの他の植物の侵入については、一見して分かるほど、地かき処理を行わない方形区Bで多く見られました。

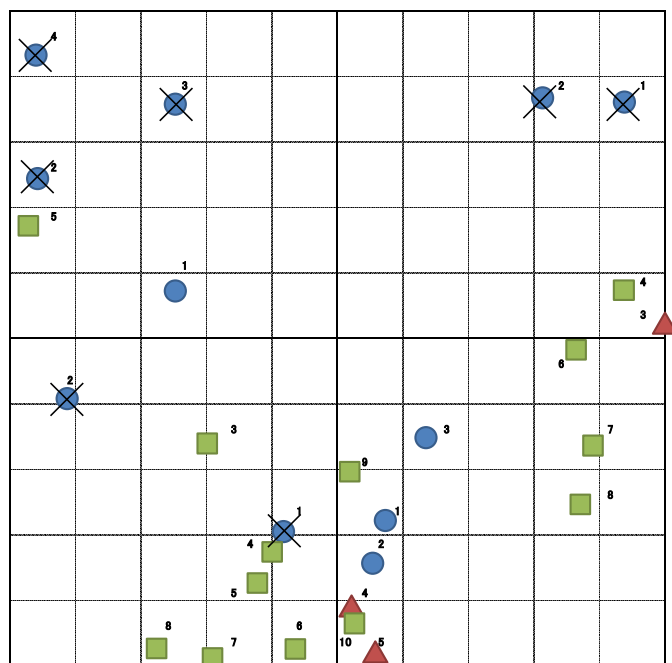
(下の写真の手前側が方形区B、奥側が方形区A)



方形区A (地かき処理あり)



方形区B (地かき処理なし)



地かき処理を行うことで、落ち葉や他の植物などの地表の障害物が減り、アカマツの種子がより多く地表へ到達できたこと、発芽した個体に必要な光も届きやすかったことなどが良い影響をもたらした要因と考えられます。

今後の次世代のアカマツ育成のためには、地かきが重要な作業となりそうです。



カブトムシの森に対する意見

活動全般に対する意見

- 皆伐でクヌギの材が沢山でるので切ったクヌギの活用を考える。
- 皆伐の後は①常緑樹を伐採する。②草花・実生を育成する。③草刈作業中心の活動
- 下草の育成として、刈り草を現場に放置しないで別の場所で処理する。
- ヤードを撤去する。ヤードの杭丸太は階段に利用する。
- 皆伐を行うため、何のために伐採を行っているかを説明するサインを設置する。
- 更新方式としてはブロック単位での皆伐が望ましい。また A 地区の大径木は樹齢30年近いものがあり、萌芽更新が難しい場合は苗から育てることも検討する。
- 飼育小屋は完全に撤去するか、土台は残しベンチや荷物置きなどに利用できないか検討する。
- 昆虫の多い森にするためには間伐などで切った材は森に残して土に還す。
- 昆虫を増やすことを狙った樹種も育成してする。蝶や他の昆虫が集まる木を増やす、明るいところを増やす、伐倒したクヌギを入園者が荒らせない場所で堆肥化する。(産卵床)

A地区

- これまでの「クヌギの大径木を育てる」という計画から萌芽更新していく方針に変更する。
- A 地区のイメージとしてはクヌギ・コナラを皆伐し、他の樹種の高木は伐採する。(低木は複層林にするために保存する。
- 順次複層林化し、落葉樹の森とする。(低木は常緑樹も残す)



B地区

- せせらぎは、子供たちが楽しめるように整備する。
- 湿地はヤブ状態になるのを防ぐために草刈りを行う。草刈後は湿性植物が出てこないか観察する。



C地区

- C 地区も皆伐を目指す作業はA地区を優先し、C地区は、近接している木から伐採する。
- 林道側の大径木(タブノキなど)は、管理事務所に伐採を依頼する。
- C地区の北側および東側が暗く、入りづらいイメージである。
- 東側は、小径木の一部を除伐するだけでも明るくなると思われる。
- 下層植生を豊かにするための方法として、過去の勉強会で学んだ「刈った草は別の場所で処理」と「裸地を作る」ことを行う。
- キャンプ場側からの進入路は橋を直し、林道との間の灌木を除伐して、見通しを良くする。



今回の検討会開催に際してたくさんの意見をもらいました。計画にはこれらの意見を盛り込んで植物が生き生きと育ち、多くのいきものが集まる未来予想図を描きます。ご期待ください。

油山のお仕事日記

「巨木さがし」

油山市民の森・自然観察指導員 小川真樹

油山市民の森でお仕事しております。自然がいっぱい、お客様とのふれあひもいっぱいのこの職場で、たくさんの発見や気づきに心躍る毎日です。今回から、そんな油山のお仕事の中で、感じたことや学んだことなど、自由に書いて行きたいと思います。

さて唐突ですが、私は樹木が好きです。巡回中など、知らない樹種を発見するとたいへん嬉しくなります。また、大きな樹も好きです。「ここにあります」といった存在感にぐっときます。環境省の巨木調査は、1.3mの高さで幹回りが3m以上の樹を対象としていますが、そんな巨木が油山にあるのかなと探してみました。そんな中で見つけた樹木たちをご紹介します。

まずは登山道Aコース、片江分岐にあります大きなクロキ。クロキ自体、大きな木というイメージが無いので、まずはその太さに驚きます。そして一番の見どころは枝です。永年尾根に生育していたためか、枝がうねってオバケ感満載。ホラー映画で稲光がピカッと光ったら墓場に怪しく浮き出るあのシルエットです。

続いては特別観察路。南端から歩いて尾根道を終え、谷をまたいだ先に大きなスタジイがそびえ立っています。太さもさることながら高さもなかなかのもので、死角から劇的に現れるので、南端から歩いて会いに行くのがおすすめです。スズメバチの大きな古巣がついており、生きものたちの物語の痕跡も感じます。

最後は油谷のクスノキです。油谷とは、料金所から油山観音方向へ車道を少し行くと、左手に見えてくる小道です。これを5分くらい登ると、左手の尾根に巨大なクスノキが現れます。小道から20~30mほど離れているので下ばかり見て歩いていると見逃します。実はここまで紹介したクロキもスタジイも、幹回りは3mに届いていないのですが、このクスノキは余裕の3m超え。「でかー！」ただその一言です。

私の調査では3m級の巨木は油谷のクスノキだけでした。薪炭林として利用されていた油山に巨木はあまり多くないようです。それでも、ヤマタノオロチのようなヤマモモのひこばえや、熱帯雨林に迷い込んだかのような立派な板根のツブラジイなど、ここで紹介しきれない魅力的な樹木とたくさん出会うことができましたよ。ああ、楽しかった！

リレーコラム

～子どもと森会に行こう～

平野 陽菜子

我が家は、小学1年の双子の長男・長女、2歳の次女がいる5人家族です。2017年9月に森会に入会して、月1回ほど活動に参加しています。親の私は森の保全について全く知らないですし、植物や生き物の種類も知らず、聞いてもすぐに忘れてしまう始末です。でも、生き物が森の中で暮らす様子を作業しながら観察すると発見があって、楽しい時間です。

入会のきっかけは、長男が活動の様子を見学して、「自分も木を切ったり草を刈ったりしたい!」と言ったからです。どうなるかな?と思いましたが、長男と長女は活動に参加する日を楽しみにしています。



森会は、その人ができることをする。そのため子どもも一人の人として扱い、作業を割り振ってくれ、のこぎりや剪定ばさみといった道具の準備、使い方、手入れまできちんと教えてくれます。自分で使ってこそ道具の便利さや危ない事も分かるので、親が教えられることを森会を通じて身に付けています。

一方で、作業を強制されないのも、子どもは森の中で自由に過ごしています。長男は木の伐倒でのこぎりを使い、長女は草を刈りながら生き物を観察したり、次女は私と散歩したり。時には双子で沢に橋を作る!と言い出して、一日かけて作ったりもしました。みんな、ダメとも言わず、かといって沢山声をかけるでもなく、作業をしながら見守ってくれます。やりたいことをやりたいようにして過ごす時間は、生き生きしています。

普段の生活は小学校と家庭中心、祖父母は県外に住んでいるので、狭い人間関係です。森会では接点の少ない大人と一緒に過ごせます。今は何も思わないかもしれませんが、大きくなったら色々な話を聞ける環境にいると気づいてくれたらと思います。これからも家族で活動に参加します。

うん・えー会報告

2018年3月10日(土) 9:30-15:00

司会: 林 板書: 鎌田

出席: 静岡、川上、国広、榎、橋本、新地、森山
平野5名、新牛込2名 計16名

1. 役割決定、資料確認
 2. 12~3月 活動報告(会報125号参照)
 3. 12~3月 特別活動・対外支援活動報告
12/6(水) アカマツ林・材処理、作業道整備
1/18(木) カブ森・材処理、楢木作り
1/20(土) 三菱電機環境保全活動(30名)
アカマツ林地掻き、材処理
 4. 2017年度経過報告
4-1 会員数 34所帯・61名(2018.3.10現在)
4-2 年間活動 20回 平均参加者 11.7名
特別活動 4回 平均参加者 4.3名
対外支援活動 2回 平均参加者 6.0名
4-3 2017年度世話役の振り返り
・雨天で作業中止の場合の予備日を設けたらどうか
・ピットホールが荒らされていた為、場所を考慮する
・安全講習でピットホールして伐倒することを学んだ等
4-4 会計 現時点約75,000赤字も運営に支障無
 5. 2018年度審議
5-1 役員関連 前年度役員の留任決定
5-2 会員関連
① 会費 2018年度より正規入会費のみとし
途中入会費及び学生会費は廃止する。
② 会員登録 3/23(金)までに会費振込みのこと
③ 柏陵高校生の参加形態 2018年度からは
個人として会員登録しての参加となる
 - 5-3 活動関連
① 日数、項目、日程→「活動予定」をメール配信
*2018年度中に新5カ年計画を策定
② 世話役決定 前年同様。他会員の経験の準備も。
③ 対外支援活動
・柏陵高校環境科学コース研修 2019.1.11(金)
・三菱電機活動は未定 候補日 2019.1.26(土)
 - ④炭焼きの研究 12.16(日)納会時に。材の活用。
 - 5-4 予算関連 助成金は現在申請中
 - 5-5 会報の配布方法 次号からメール配信開始
紙での希望者は会費振込用紙にその旨を記載
 - 5-6 会報記事 「情報コーナー」は必要の都度
掲載とし、通常紙面としては「センターだより(仮
称)」を小川レンジャーに執筆依頼
6. センター連絡事項
6-1 2/25(日)ボランティア交流会(森を育てる会、
自然案内人の会、野鳥・ヤマガラ会の会、植物保護巡視員)
- 6-2 生物モニタリング調査を実施予定
7. 発送作業 会報、世話役振り返り、振込用紙等

活動予定(2018年7月~)

- ★〈作業〉〈調査〉〈観察〉は小雨決行
〈うん・えー会〉〈勉強会〉は雨天決行
活動時間: 9:30集合 ~ 15:30解散
 - ★荒天の場合はセンターまでお問い合わせください。
 - ★活動内容は、当日の参加人数、天候等によって変更になる場合があります。
 - ★〈作業〉の標記のある日の服装は「森会スタイル」
(長袖、長ズボンで安全に作業ができる動きやすい
服装)でご参加ください。必要な持ち物は
いぼ付軍手・帽子・タオル・弁当・飲物・おやつ
筆記用具の他、必要に応じて着替え・雨具をご持
参ください。
- 7月8日(日) カブトムシの森作業
草刈りとヒメヒオウギズイセン除去の予定
- 7月21日(土)~22日(日)
カブトムシの森・昆虫調査とせせらぎ整備
- ・昆虫調査
21日 18:00~ バーベキュー後にライト
トラップ調査 <宿泊者は1泊>
22日 9:30~11:30 ホイホイ&ピッ
トフォールトラップ回収とルート観察
 - ・せせらぎ整備
22日 9:30~15:30 沢に入りながら
石や砂利を動かし、水遊び場を整備
- 8月4日(土)
カブトムシの森昆虫調査とせせらぎ整備
- ・昆虫調査 水棲昆虫観察、ホイホイ&ピットフ
ォールトラップ回収とルート観察
 - ・せせらぎ整備 沢に入りながら石や砂利を動か
し、水遊び場を整備
- 8月19日(日) 木工教室 9:15~16:00
夏休み森の工作教室: 保全作業で伐採した材など
を使って工作を行います。一般参加の方も募って
行うセンター主催の森会の活動説明会です。
- 9月2日(日) 油山自然観察とうん・えー会
- ・油山自然観察
ボランティアグループ「油山自然案内人の会」
のみなさんと一緒に自然観察を行います。
次週に案内人のみなさんが開催する「おとなの
かんさつハイキング」の下見に同行する形です。
 - ・うん・えー会
7~9月活動報告、9~12月活動予定、その他

油山自然観察の森 森を育てる会
会報『森ものがたり』 季刊発行
編集担当: 川上寛、国広信幸、鎌田隆、静岡純、
松雪清人 印刷担当: 山川昇一
